



社会教育活動ハンドブック

～ サークル・団体活動活性化戦略 ～

もくじ



はじめに	1
サークル・団体の皆さんが抱える課題と戦略	
課題1 会員に関すること	2
戦略1 積極的な広報活動を展開しましょう	
戦略2 会員の求める活動を進めましょう	
戦略3 新しい会員が活動しやすい環境, 参加年代に応じた環境をつくりましょう	
課題2 役員・指導者に関すること	5
戦略1 役員のなり手を確保する環境をつくりましょう	
戦略2 役員活動を効率的にしましょう	
戦略3 役員・指導者としての資質向上を意識しましょう	
戦略4 長期的な視点で役員・指導者の育成を図りましょう	
課題3 定期活動に関すること	7
戦略1 活動場所や発表会場などを見直しましょう	
戦略2 様々な活動援助を活用しましょう	
課題4 他の団体との連携に関すること	9
戦略1 他団体との交流を積極的に図りましょう	
戦略2 共通の活動を見つけましょう	
課題5 地域や学校との連携に関すること	11
戦略1 地域に誘うきっかけをつくりましょう	
戦略2 地域で共通の活動を取り入れましょう	
戦略3 すべての人が接点を持つ子どもを軸とした活動に取り組みましょう	



はじめに



平成25年度から3年間の任期で委嘱された「守谷市社会教育委員の会議」では、今後の守谷市における社会教育関係団体（サークル・団体）の支援の在り方について、社会教育を取り巻く状況や課題を踏まえて、今、サークル・団体が抱える課題を洗い出し、解決方法について検討しました。

多くの会員の皆さんにより年間を通して様々な活動プログラムを実施してきた社会教育関係団体ですが、会員数が減少したり、活動が定型化したり、役員のなり手がいない、活動を活発化させるためのきっかけがないなどの悩みを持つ団体も見受けられることがわかりました。

社会教育委員は、各々の活動を振り返って課題を見つけるとともに、他のサークル・団体が抱える課題についても聴取を行い、団体活動の中で抱える課題を解決するためにはどうすべきかを協議しました。

その内容を、「会員に関すること」、「役員・指導者に関すること」、「定期活動に関すること」、「他の団体との連携に関すること」、「地域や学校との連携に関すること」についてまとめ、サークル・団体活動の活性化に向けたハンドブックを作成しました。

また、守谷市が進める「協働のまちづくり」の中で、行政との協働とは別の観点で、サークル・団体相互の協働が想定される事例も掲載しています。

このハンドブックは、サークル・団体がより活性化するために、課題解決に向けた行動をするための参考としていただけるようにまとめたものです。多くの皆さんに活用していただければ幸いです。

守谷市社会教育委員の会議



サークル・団体の皆さんが抱える課題と戦略

課題1 会員に関すること

- 1 新たな会員が増えません。会員が減少しています。
どのようにしたら、会員数を保てますか。また、会員を増やせますか。
- 2 会員の高齢化が進んでいます。
若い世代の会員をどのように増やしたらよいですか。



戦略1 積極的な広報活動を展開しましょう

新たな会員の獲得には、団体の存在と活動を知ってもらうことが大切です。そのためには、多様な方法による積極的な広報活動が必要です。

① 広報紙、新聞などを活用しましょう

市の広報紙、新聞のミニコミ誌を通して、市民の皆さんの目に触れる事業の広報を積極的に行い、団体のPRをしましょう。

特にミニコミ誌などは、地域の情報として団体活動の紹介をタイムリーに行うことがあるので、積極的に情報提供を行うことが効果的です。

② 公民館・もりや学びの里などの社会教育施設を活用しましょう

公民館などの社会教育施設では、団体活動の支援のために、掲示板を使ったポスター掲示や、会員募集記事の掲載などを行っています。それぞれの団体が利用している施設を活用して、「自分たちの活動」の紹介や行事を案内するなど、積極的な広報を行いましょう。

③ 地域の掲示板などを活用しましょう

自治会や集合住宅など地域内の掲示板や回覧板を利用して、団体の行事や会員募集等の案内を行うことを工夫してみましょう。掲示板や回覧板の利用については、自治会や集合住宅の管理組合などの役員の方に相談してみましょう。

掲示板の掲示物は、常に新しい情報を提供できるように定期的に更新しましょう。

④ 歴代の役員・指導者に情報を提供しましょう

過去に団体の役員・指導者として協力いただいた方々に、定期的に団体の状況や活動内容を報告することで、会員の勧誘につなげる下地を作ることも大切です。いわゆる口コミによる広報活動を効果的に行いましょう。

⑤ ホームページを活用しましょう

市内の公民館、学校などの公共施設で活動している団体は、市ホームページの『サークル掲示板』で活動紹介や会員募集ができます。会の事業活動を掲載して広報活動を行うことも効果的です。

最近では、ホームページを開設する団体も増えました。掲載情報の更新をこまめに行い、タイムリーな情報を発信し続けることが大切です。

⑥ 会員全員で広報活動をししましょう

あらゆる世代を通して、知り合いからの呼びかけは効果的です。活動に参加するきっかけを探している人たちもいるので、すべての会員が様々な場面で活動をPRすることが大切です。日頃から、会員各自が地域の中で顔の見える良い関係を築き、活動の内容を知ってもらいましょう。

⑦ 市民の活動への関心を調べましょう

多くの人たちがどのような活動に関心を持っているかを知ることが大切です。自主イベントの際にアンケート調査を実施したり、市や県などが公表している意識調査等を参考にして、新しい会員が入会しやすい環境を整えましょう。

★★★ コラム ★★★

年1回、中央公民館のホールで発表会をしています。今年は会員が手分けして、お知り合いにチラシをお渡ししました。お知り合いがお知り合いを呼び、おかげさまでたくさんの方に日頃の練習の成果を見ていただくことができ、活動時間にも見学に来る方が増えました。口コミってすごいですね。

百合ヶ丘在住 / 50代 / 女性



戦略2 会員の求める活動を進めましょう

会員が会に期待する活動内容は、会員の置かれている状況や社会状況によって変化します。日頃から、会員の活動に関する感想や目標などを聞き取ることで、活動内容が適切かを確認します。また、社会の変化に関心を持ち、自分たちの活動に関わるものは何かを把握し、団体活動の中に生かせるものを見つけることが大切です。

☆☆☆ コラム ☆☆☆

私が所属するクラブでは、年間行事計画を立てるときは、希望を取り全員で内容を精査・検討し、行事ごとに担当者を決めて運営しています。

責任分担にこだわることでクラブに対する愛着が発生し、積極的に運営に協力すると共に、クラブ活動参加率が上がり、全員勧誘に繋がっています。

大柏在住 / 70代 / 男性

戦略3 新しい会員が活動しやすい環境、参加年代に応じた環境をつくりましょう

新たな会員が円滑に活動できるようにしたり、会員の年齢や経験年数に応じた活動環境をつくることは、会員の定着や活動を活性化するために必要です。

① 新規会員の受け入れ体制を整備しましょう

新規会員向けのプログラムや新入会者中心の部会を用意するなど、新しい会員が活動しやすい環境をつくりましょう。

一日体験教室など市民の関心を引く事業などを行い、参加するきっかけの場を設けましょう。団体によっては子ども向けのプログラムを実施することで、その後の会員獲得につながる場合があります。

また、活動をすることの利点を積極的にPRするとともに、それにかかる経費などの負担面も分かりやすく示すことも必要です。

② 会員の年代に応じた対応をしましょう

青年層なら休日や夜間に事業を実施するなど、世代ごとに関心や生活時間に応じた活動の場を設けることで、会員の活動しやすい環境で活動を進めましょう。

子育て世代の人は、単に託児を行うことだけではなく、家族全員でできる活動を工夫することで、その後の様々な行事の活性化につながります。

★★★ コラム ★★★

年齢を重ねると孤独をいちばん心配し、周囲に溶け込みたいが、会の中で人間関係・上下関係が発生するのを嫌がり、加入に迷う傾向があります。

そのため、ボランティア活動等を織り交ぜ、会の活動が地域に何らかの貢献をしているところを周知してみました。人間関係にこだわっていた人が、自分の価値観を見直し、加入しようという気持ちになってくれました。

大柏在住 / 70代 / 男性



先日、ある施設に若いお母様方が赤ちゃんを連れて集まっていました。産後の体操やベビーマッサージのサークルだそうです。きっと、産前からのお付き合いから始まり、産後の活動につながっているのだと思います。

今後も、お子様の育ちに合わせて、いろいろな情報共有ができる良いお仲間としてお付き合いが続いていくのでしょうか。

私にも少し前にそんな機会があったはず・・・今の若いお母様方のパワーで、良い仲間・居心地の良いサークルを増やしてほしいと思っています。

市内在住 / 40代 / 女性



課題2 役員・指導者に関すること

- 1 役員や指導者が高齢化している。役員が固定化しています。
役員や指導者をどのように確保・育成すればよいですか。
- 2 役員が忙しく、活動等の時間がなかなかとれません。
役員の活動調整をどのようにすればよいですか。



戦略1 役員のなり手を確保する環境をつくりましょう

役員が高齢化・固定化する要因は様々ですが、活動の活性化には、多くの会員が会の運営に関わる必要があります。そのためには、会員経験が短い人からベテランまで幅広い会員が役員を務められるようにしましょう。

普段から会員同士のコミュニケーションを図り、日頃から役員をすることのプラス面を話し合うなど、役員を負担と感じない環境をつくるのが大切です。

① 役員の行うことをわかりやすくしましょう

それぞれの役員は、毎週や毎月どれくらいの頻度、時間で、どのような活動をするのか、職務内容を具体的に示すことは、「役員は大変だ。」という気持ちを変えることにつながります。

特に、先輩役員の経験談や成果などを聞いて、「役員をやって良かった。」と思えるような活動や目的を示し、やりがいのある姿を見えるようにすることは、後継者育成の点で大切です。

② 負担を分担しましょう

役員一人ひとりの役割分担を明確にし、多くの会員に仕事を分散するようにしましょう。これにより役員の負担を軽減できるばかりか、団体の運営に関わることでそれぞれの理解を深め、さらにやりがいを感じてもらうこともできます。

また、団体を運営する役員とは別に事業ごとの担当役員を置くなどで、役員の仕事分散する方法もあります。役職を固定せず、多くの人に積極的に役割を割り振ることで、負担を分担しましょう。

戦略2 役員活動を効率的にしましょう

団体の活動には、毎年定期的に行うものが多くあります。活動準備のための役員会の日程をあらかじめ年間計画で定めておくことや、会合日時を一定の曜日や時間にすることで、各役員の日程調整がしやすくなります。その際、託児が必要な人、仕事をしている人などへのサポートやフォローを考えることも大切です。

あらかじめ議題を伝えたり資料を配布するなど工夫することで、会合の時間を短くすることも可能です。

また、団体の代表者は対外的に様々な会合へ出席することがあり、多忙になりがちです。代表者が出席しなければならないものは、案外少ないものです。役員で分担することを考えましょう。

★★★ コラム ★★★

ボランティア活動歴20年、現在、5団体の役員をしております。

企画・会計・広報など活動内容別に分担していますので、大変なようでも自分なりに大勢の方々とかかわって、役員を楽しんでいます。

一人で抱え込まず、会員の皆さんと交流を持てば、自然と負担を感じなくなるものです。

御所ヶ丘在住 / 70代 / 男性

戦略3 役員・指導者としての資質向上を意識しましょう

役員や団体活動を指導する立場の人は、常に団体の目的にあったプログラムを受け入れた活動を展開することが必要です。役員・指導者自身がその資質を身に付けていることが大切です。

また、役員・指導者の態度は、全員が感じ取ります。役員・指導者自身が常に資質向上を図る努力をしていると、会員の活動の充実へと反映されます。役員・指導者の研修機会を確保するとともに、資質向上を図りましょう。

研修会は、団体単独で開催するものばかりではなく、団体の連合組織、市や教育委員会などで開催するものもありますので、情報収集や視野を広げるためにも積極的に研修会に参加しましょう。

戦略4 長期的な視点で役員・指導者の育成を図りましょう

役員・指導者の育成は、活動を継続させていくうえで重要です。

団体活動を長期に継続していくためには、日常活動の中で役員・指導者となる後継者の育成に継続的に取り組むことが大切です。研修機会を設けたり、様々な役割を経験してもらうことなどで会員の成長を図ることも考慮しましょう。

守谷市子ども会育成連合会では、小学生のリーダー育成研修会に地元の高校生を活用し、指導者として活躍するプログラムを築いています。同様に高校生を活用するプログラムは、ボーイスカウト、ガールスカウトなどの青少年団体が取り組んでいます。これは、継続的な指導者育成を活動の中に取り入れているもので、すべての団体においても活動を継続させるうえで大切なことです。

★★★ コラム ★★★

人とのかかわりを持つと何かと煩わしいという理由で
独りで隠れる人もたくさんいると思います。引きこもらず、
どのような団体、サークルでも良いので人間関係の煩わしさを
楽しんでみませんか？

所詮は人が集えば、当然煩わしいことが発生します。
それを刺激と受け止め、自己を活性化しましょう。勇気を持って！！

松前台在住 / 60代 / 男性



課題3 定期活動に関すること

- 1 活動場所・発表会場の確保が難しいです。
活動場所をどのように確保したらよいですか。
活動成果の発表会場をどのように確保したらよいですか。
- 2 活動費、事業費などの経済的な問題があります。
どのように活動費を確保したらよいですか。



戦略1 活動場所や発表会場などを見直しましょう

公共施設などで団体活動を行う場合、会場を思うように予約できないことがあります。公共施設だけでなく、他の施設の利用や会議内容を見直すなど、これまでと視点を変えると会場が確保しやすくなる場合があります。

① 活用できる施設を多方面から探しましょう

公民館や学校体育施設は利用率が高く会場確保が困難な場合がありますが、市内には地区の集会所、貸しスタジオなどの施設もあります。また、ショッピングセンターのコミュニティホールも団体に開放していただけます。周囲の施設を探して、施設管理者に相談してみましょう。

② 会合の開き方などを見直しましょう

会議などの開き方や協議内容を見直して、一度の会合で多くの内容を協議できるようにすることや、協議時間（会議開始時刻から終了時刻まで）の徹底などの工夫を図りましょう。会合の開催を効率化することで、会場を確保する機会を少なくすることも考えましょう。

③ 施設を共同で利用しましょう

複数の団体でひとつの会場を確保し、合同の展示会や発表会などの行事を開催することも検討してみましょう。

また、比較的利用の少ない時期に開催することも考えられるでしょう。

戦略2 様々な活動援助を活用しましょう

団体活動を行ううえで様々な経費がかかります。とりわけ、新たな活動を行おうとすると費用負担も増えることがあります。団体活動を援助する制度を活用したり工夫をすることで負担を軽減できることがあります。

① 資金援助者を探しましょう

事業を行う際、事業所とタイアップしたりプログラムに広告を掲載するなど、協賛金を募ることで、事業費の一部を賄うことができます。

また、フリーマーケットやバザーなどにより活動成果品を安価で販売することで、活動経費の一部を得ることもできます。(※ 出店には制約があります。主催者に相談しましょう。)

② 助成金を活用しましょう

市民の社会教育や文化活動の支援や社会貢献活動の一環として地域の様々な活動の助成金制度が設けられています。助成制度の情報は、それぞれの助成実施機関のホームページや市の関係課でも調べることが可能ですので、積極的に試みてみましょう。

★★★ コラム ★★★

グラウンドゴルフの活動では、グラウンドの確保に苦慮することがあります。都市公園や運動公園など他の団体が使わない時間帯を配意し、長期計画でグラウンドを借用しています。

市内に確保できない場合は、他の市の施設に出向き、有料ですが整った設備を使うこともあります。往復の自動車を交代で出し合い、ガソリン代は全員で負担することにしています。

大柏在住 / 70代 / 男性



課題4 他の団体との連携に関すること

- 1 他の団体と連携を図りたいです。
 どのようにしたら、他の団体と情報交換が図れますか。
 どのようにしたら、他の団体と連携が図れますか。
 どのようにしたら、様々な団体と共同した活動が行えますか。
- 2 自分たちの活動を必要とする人（団体）などの情報を見つけたいです。
 どのようにしたら、他の団体の情報を探せますか。



戦略1 他団体との交流を積極的に図りましょう

団体同士の情報交換・連携は、これまでも公民館などの社会教育施設を中心に様々な形で行われています。これらの情報交換・連携の機会をきっかけにして他の団体との交流を図りましょう。

① 団体と知り合うために情報の提供と収集をしましょう

団体の目的、内容、会費や活動状況などの情報を記載した「しおり」を作成し、機会あるごとに他団体に配布します。団体のPRをするとともに情報交換のきっかけになります。また、広報紙やホームページなどを活用することもあるでしょう。

同様な活動をしている団体が、連絡会、協議会などの相互連絡組織を持っていることがあります。連絡組織に加入することで、お互いに団体の情報を発信したり、情報を受けることで情報交換が図れます。

公民館で行われている利用者協議会や文化祭など、日頃、団体で使用している施設で多くの団体が集まる機会に、団体の情報提供を行います。参加者同士の交流の場を持ち、互いに認め合うことがその後の連携につながるきっかけになります。

② 他の団体の情報を集めましょう

様々な団体の情報を扱っている市や団体の上部組織のホームページなどは、自分たちの団体のPRのために活用するだけでなく、他の団体の情報を調べるうえでも有効です。

日ごろから、公民館などの社会教育施設やホームページなどで公開されている他の団体の情報を閲覧することで、自分たちの団体と協力し合える内容を見

ついたり、連携を始めるきっかけになることがあります。

③ 活動内容の連携をしましょう

団体が持っている知識や能力などを、相互に交換したり提供しあって一緒に活動し、連携を持つことが、新しい活動を進めるには必要です。

共通の課題での研究会や研修会を通して、お互いの活動を高め、認め合うことで連携を深める方法があります。

例えば、活動領域が異なっても、役員・指導者に求められる能力は共通するものが多くあります。そこで、それぞれの団体が開催する研修会のなかで、他の団体が参加可能な研修会に参加をしてもらうことも考えられます。他の団体のプログラムから自分の団体の活動を考えるきっかけになることもありますし、参加者同士の交流が団体相互の交流に発展することもあります。

戦略2 共通の活動を見つけましょう

社会教育関係団体同士が協働して取り組まなければならないという認識を持って活動をするには、団体のネットワークを広げ、相互の活動の活性化に結びつくこととなります。

また、複数の団体が同一の場所でイベントを開催することは、多くの来場者を集めることが可能になるばかりではなく、経費の削減になることもあり、お互いの活動に様々な相乗効果をもたらすことがあります。「戦略1」にあるように、他団体との交流を積極的に図り、情報を収集し、連携が可能な団体を探すことが大切です。

例えば、「音楽のつどい・ワイワイコンサート」や「もりやミュージックフェア」など異なった種目の団体で一つのステージを公演することで、相互の理解が進むとともに活動内容がより高度なものになった事例もあります。お互いに新しいものに取り組もうとする研究心がきっかけで、活動の活性化につながりました。

★★★ コラム ★★★

私は公民館まつりに音楽で参加しています。数年前から他の団体と一緒に何かしたいと考えていました。毎年、まつりに参加する全団体の代表者が実行委員となる会議があります。昨年、そこである団体に声をかけたところ、快く受け入れていただきジョイントができました。

その後もいろいろなイベントでコラボする等の交流があります。あの時思い切って声をかけて良かったと思っています。

けやき台在住 / 60代 / 女性

課題5 地域や学校との連携に関すること

- 1 地域活動に参加しない人が多いので、関心を持ってもらいたいです。
市民の意識を変え、地域活動に参加してもらうためにはどのようにすればよいですか。
転入などしてきた市民に地域活動へ参加してもらうには、どうしたらよいですか。
- 2 団体の活動が地域の人になかなか伝わりません。
団体の活動を知ってもらうには、どうしたらよいですか。
- 3 地域や学校の活動と連携を進めたいです。
自治会などの地域の団体との連携は、どのように進めたらよいですか。
学校との連携は、どのように進めたらよいですか。
小学校での行事等に協力したい。協力者募集の情報はどうしたらわかりますか。



戦略1 地域に誘うきっかけをつくりましょう

地域での活動を煩わしく思う市民は増えていますが、些細なきっかけで地域の活動に関心を示すことがあります。きっかけづくりが大切です。

① 地域への興味を誘いましょう

自分が関心のあることには、誰もが行動を起こしやすいものです。転入してきた市民が地域の行事に参加したことを契機に、地域の活動に参加するようになった事例があります。また、顔見知りであれば、関心のありそうな活動に誘うことも効果的です。

② 地域の人材を調べましょう

地域の中には、様々な職業や経験を持った人がいます。地域活動に協力できるものや提供できるもの（知識や特技など）があるかを日頃から注視して、機会があるごとに誘ってみましょう。ある自治会では、地域の人材を調べて地域で共有し、地域活動への協力をお願いし、団体活動が活性化している事例もあります。地域の中で自分が求められていると感じることで、市民が地域への関心を持つきっかけになります。

戦略2 地域で共通の活動を取り入れましょう

地域の課題に関わる活動は、地域で活動する意味や、自分の置かれている立場を問いかけるきっかけになります。また、他の団体と協働して地域活動をするすることで、自分たちの活動を見直すきっかけが得られます。このようなことを日常の団体活動に生かすことで、会員の活動意欲の向上や団体活動の活性化につながることがあります。

日頃から、会員各自が地域の中で顔の見える「良い関係」を築くために、地域で行われる活動に積極的に参加しましょう。さらに、地域の方々の了承のもとで、社会教育関係団体として活動に参加することも考えられます。様々な活動を経験することが、団体活動に生かされます。また、地域の中で団体活動について知ってもらうことで、会員の獲得や新たな活動場所の確保などにもつながります。

団体のイベントなどの情報をこまめに地域に伝え、地域の方に参加してもらいましょう。また、地域の行事に団体のコーナーを設けて参加するなど、団体活動の中に地域の交流機会を設けることで、地域と団体それぞれの活動を活性化することが期待できます。

☆☆☆ コラム ☆☆☆

日中、若い人は仕事に出ていて町内会に残るのは高齢者です。地域のお祭りなどには、会場設営・祭りの運営などを、老人クラブの会員が中心に行っています。

町内会の「防火・防犯パトロール」には、年間を通して人員を指定し、積極的に参加協力して町内の皆さんから感謝されているようです。

小学生の通学時の事故防止のために送迎をしたり、通学路の草刈りをしたりして、子ども会保護者とコミュニケーションを図っています。

地域の子ども達はみんな自分の孫のように感じています。

大柏在住 / 70代 / 男性



戦略3 すべての人が接点を持つ子どもを軸とした活動に取り組みましょう

子どもの安全確保や健全育成・子育て支援などの事業は、地域社会全体で取り組む必要があります。

子育て終了、子育て中、これから子育てをする世代と子ども自身、すべての世代が接点を持つ「子ども」を軸とした取り組みは、家庭、学校、地域社会それぞれの場所で、様々な団体や個人が協力して行うことが求められています。これらを通じて、社会教育関係団体が持っている人材を生かすことができます。

① 学校内の活動に参加しましょう

学校の教育課程の中で、地域の様々な知識や技術を持った市民の活躍が期待されています。さらに、学校運営協力員、見守りボランティアや様々な学校ボランティアなど、学校と地域の連携を進める活動も進められています。

学校ボランティアの募集などは、必要に応じて、学校が行っています。日頃から会員各自が学校行事に協力するなど「良い関係」を築きましょう。

② 地域の子どもたちの活動に参加しましょう

「放課後子ども教室」など学校以外の活動に、地域の様々な知識や技術を持った市民の活躍が期待されています。子どもたちの活動を支援することで、団体が持つ人材を生かすことができます。

協力を希望する団体は（※）教育委員会に相談するとともに、日頃の活動の中で、地域や子ども教室側から協力が求められるような関係を築きましょう。

※ 「放課後子ども教室」は運営を民間委託しています。

教育委員会で受付けた後、委託先におつなぎします。

